

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

さっぽろ 市議団ニュース

<第2回定例会>

2015年7月10日

No. 135

日本共産党札幌市議団 事務局

tel 211-3221 / fax 218-5124

札幌緑小の児童会館—住民の要望聞き建設を

太田秀子議員が質問

日本共産党の太田秀子議員は9日、議案審査特別委員会で札幌緑小学校区に建設される児童会館について質問しました。

太田議員は、自身も運動にかかわり「とても良いこと」と喜ばれ、地域で待たれている児童会館について、「建設用地についてはどこを考えているのか」「どのような施設にするのか地域住民の声を聞くことが重要だと思うがいかがか」とたずねました。

岡部子ども育成部長は、「学校敷地外を前提にして札幌緑小学校との位置関係も含め適地を検討していきたい」「多世代交流という機能を持ち合せた施設としているため、札幌緑小の保護者はもとより地域の方々からも意見を聞く機会を適宜もうけたい」とのべました。

太田議員はまた、児童会館が建設されるまでの間、放課後子ども館で対応するとしている問題で、「開設時間が16時45分までの放課後子ども館では、子どもの放課後の居場所としては不十分ではないか」とたずねました。

岡部部長は、「放課後子ども館は開館時間の制約はあるものの一定の受け皿になりうるもの」「保護者には児童会館が開館するまでの限定的な対応であると理解していただけるよう丁寧な説明をしていきたい」のべるにとどまりました。

教育センター(ちえりあ)の教育相談員の増員、体制強化を

伊藤りち子議員が質問

日本共産党の伊藤りち子議員は9日、議案審査特別委員会で特別支援教育相談非常勤職員(普通学級に通う子どもたちの日常生活や学習で気になる問題について教育相談を行う)の増員と体制強化について質問しました。

伊藤議員は、教育センター(ちえりあ宮の沢)の相談件数が増加しており、2014年度は電話相談が2443件、来所による相談が2494件で前年から321件増、相談できるまで39日もかかることがあるとのべ、「寄せられる相談の内容や傾向はどういうものか」「相談員をさらに増員することや相談所の拡充が必要ではないか」「非常勤職員ではなく正職員として位置づけるべき」とたずねました。

松田児童生徒担当部長は、「相談件数は年々増加しており8割が発達障がいやその疑いのあるもので、学習の遅れやコミュニケーションが苦手、また、家庭環境に支援が必要なケースが増加している」とのべ、「今後も敏速できめ細やかな相談ができるよう相談場所や人材の確保など拡充に努めたい」、正職員化については「今後の相談体制の充実のなかで考えたい」と答えました。